
人文会 ニュース

業務用

覆面座談会	書店を考える.....	(1)
買切制に思う	四谷文鳥堂 木戸幹夫.....	(5)
委員会から		(8)
換気扇		(11)
新年度会員名簿		(12)

'80. 8

27

小松茂夫・田中 浩 編

日本の国家思想

上巻 ¥2300.

〈全2冊〉

日本の思想家たちは、国家における〈権力〉と〈自由〉との緊張関係、さらには〈国家構想〉や〈現状変革〉という基本的な問題にどのようにかわり、取り組んできたのか——かれらの営為を理論的・思想的に追究することをして、日本人の国家意識を抉り出し、現代日本の思想状況を根源的に問う共同労作！ 上巻執筆—田中浩・ひろたまさき・安世舟・松永昌三・栄沢幸二・和田守・小松茂夫・大木基子・大原慧・半沢孝磨 [下巻＝7月下旬刊]

東京神田 青木書店 神保町1

▽ 有斐閣新書

〈古典入門〉

アウグスティヌス告

白

服部英次郎・藤本雄三著 西洋の教師「とよはれ」の苦悩にみちた体験が息づいている。告白を原典に即しつつ解説した。 六五〇円

キルケゴール死にいたる病

大谷愛人・泉 治典著 死に至る病とは絶望のことである。絶望は罪である。この主著の核心を原典の精神に立つて解説した。 六五〇円

エンゲルス労働者階級における状態

浜林正夫・鈴木幹久・安川悦子著 初期の彼の階級観・革命観が結実されている原書の解説を中心に世相や彼の思想形成を素描。 六〇〇円

有斐閣／東京神田神保町2—17

大月書店

資料 日本現代史

第1期・戦争と民衆（全6巻）

① 軍隊内の反戦運動

● 7月下旬刊

15年戦争の硝煙に隠された未公開資料を集大成

第1回配本／藤原彰 編集・解説 満州事変から敗戦にいたる15年間の、重要な主題にそって従来諸家の目にふれることのなかった未公開の文書を集大成。第1巻は、天皇制軍隊内部で困難な条件を冒して闘われた反戦運動の資料52点を収録 A5判函入／6500円

東京文京本郷2-11 電話 03(813)4651

多年の要望と期待に応える大編集！

国史大辞典 全15巻

第1回 第1巻（あ—い） 四六倍判・上製・函入 第1巻Ⅱ一〇八〇頁

第2回 第2巻（う—お） 第2巻Ⅱ一五一六頁 定価各二〇、〇〇〇円

〈特色〉

広範多彩な項目選定………

中・小項目に大項目を併用………

豊富な図版により叙述を補完

新機軸による精確な表と系図
地方史の研究成果を生かす………
研究手帳に便利な、参考文献欄
優美鮮明・新編集の別刷図版

吉川弘文館

113・東京都文京区本郷7-2-8／電話03-813-9151

覆面座談会(出版社)

書店を考える

A 今回は、版元があえて覆面をかぶって覆面ゆえのよい面を活かして、いい切って貰えたらと思うけど、出来れば、この後を書店さんにバトンタッチしたいし、そういう内容が出来たらと思っています。よろしくたのみます。

B 結局、いろいろ云っても普段いっていることにつぎるんだけど、襟を正していつてみるか。

A そうそう、襟を正した覆面だよ。ところで、ある時期、取次のパターン配本が血祭にあがったね。あれ、どんな風におさまったの。

C どうなのかな、おさまったんじゃないなくて、どうにもならないってあきらめちゃったんじゃないんですか。

D あきらめたんでしょねえ。だって今だに、新刊案内を送って申し込みをとってもパターンでくるからって返事のない店が多

いですよ。まるであてこんでる感じ。

A 大書店、中書店も……。

D 大書店の方が大振りにパターンを呑みこんでいる。

B そうだろうね。取次とのバイブがそうなっているし、部数も大書店なら、ある程度相方で読めるし……。

A 完全申し込み制をやっているところは別だろうけど、パターン問題は適正配本のことでしょう。

B 申し込みの内容にも、以外に問題があるよ。

A でも申し込み制度をくつがえす内容じゃないだろう。

B きわどいねえ。ある生協だけどね、この間、自然科学書の新刊2点を案内したら、一点が10部で、片方はいらない、0だったさ。わかる？ わからねえよ、こんなの。

類似書だよ、それも。大学生協さんだから10部の注文申し込みの方はうなずける。しかし、片っぱがゼロってほうはねえよ。

A なんか根拠があるんじゃないの。

B なにしろゼロの理由を聞きたいねえ、まったく。

A 新刊案内のコピーは読むだろうにねえ、結局先方の申し込み通りにしたの。

B フにおちないけどねえ。類書の拡販なんて信じられないねえ、こんなんじゃあ。

C その逆っていうか、うちの場合は、版元サイドで指定部数を書きこんでいるんですけど、今回はゼロ部数というお店もあるんですよ。

D 新刊の内容にもよるんですけど、貴店は今回ゼロ配本です、っていつちゃうわけですか。

C ええ、こっちは一応、今迄の資料もあるし、みえみえの返品はつくりたくないですもんね。

A 新刊でしよう、憤慨しませんか、書店で。五部でも三部でもよこせてなぐりこんでこない？

C 苦情をいつてくるところはありますよ。

B でもねえ、はつきりいって、版元が苦勞して適正配本を考えていても、わかってくれねえな、実際に。

A ま、版元と小売の適正配本の内容は違いますがねえ。

B それはそうだけど、今だに各1冊とい

うのね、結局、なにもわからないから1冊
っていったらどうかな。

C それは感じますね。依然として消極的で
す、仕入に關して。

A ものによるけど流通の問題もかかえてい
るんだから1冊じゃ、とっさの補充に困り
やしないかねえ。

B そうじゃないねえ、いかに売っていか
う、色氣の問題だよ。色氣がなくちゃあお
しまいだ。1冊をいかに2冊、3冊へと。

E さっきの0指定ですけれども、新刊の売
り損じになりませんか。

C 版元としては作り部数に対する実買部数
の問題ですから、わかり切ったロスはさけ
たい……。小売がその新刊をどうするかは
別問題でしょう。

D いわゆるデジババ書店に専門書がいくよ
うなもんですか。

E とんでもない見込み注文も依然として多
いですね。

A 小倉の金栄堂さんは自店パターンをつく
らせたらしいね、東販に。

B あそこはやるねえ。取次との力関係もあ
るけど、よくやってるよねえ。

D 金栄堂さんは棚構成もりっぱですけども
客筋を、かなりはつきりつかんでいるよう
ですな。

D 版元、小売が一緒に話しあって品選びが
やれるといいですよ、だけど、さっきの
力関係じゃないけれど、それがいい書店だ
と取次が無視しちゃうでしょう。せつかく
のいい意見も。

B そう、だけどね、なにもオール書店を問
題にしたってしょうがねえもん。人文書は
きまつてるでしょう、店も。

E だいたい全国で三五〇店ぐらいでしょ
うねえ。そのへんの店が消極的だけど……

B そこがもっと売る気になるとだいぶちが
うよ。

C いわゆるロングセラーと新刊は最低限、
気にかけて欲しいですね、ま、出来れば揃
えてくれれば一番いいけど……。

A スペース産業のむづかしいところかな。
B ちがう、ちがう、スペース産業だから、
もっとこまめに、意識的にやってもらいた
いのよ。場所はきまつちゃっているんだも
の。

C 全面指定まではだいぶ時間がかかるけど

一度指向したんだからやりとおす。一個所
でくずれると、すぐ元に戻っちゃう、さっ
きの0指定じゃないですけど、こたわるわ
けですよ。委託制の中だから、申し込み内
容を真面目に考えてくれないとこまるん
ですよ……。

B 委託だからいいかげんでっていう時代じ
やないよね。委託のもつ良さが仕入れに働
いていない。

A 買切りじゃ、売るよりも売れなかったら
どうしようと、まごまごしちゃって……

C さっきの、委託の売りやすさを活かして
もらえばいいわけです。

E いろいろやって貰うわけですけれども、
このごろ思ってますけどね、もう少し書店の
労働時間ちゆうか、労働内容を知る必要が
ありやしないかって思うんですが……。

B なにやってるんだかわからないっていう
店員もいるんだってね。

A 意外に現場サイドの判断が霧散している
みたいだよ。

D 意見があっても仕事にしないっていうか
……ある程度まかされているような人でも
意外に意見だけの人がいる。

A 上からは効率、回転率っていわれ……

E 送本、返品、ある程度、人数がいるところはいいけれども、割合に追われているんですね。

B 店全体でデーター管理を志向している場合はいいけど……。

A 個人プレーはむづかしい。

E 受け身で流される、プレーする余裕もないって聞いたことがあるけど。

C その辺は、やる気の問題だと思いますよ。実際、重労働でしょうけど、方法論がないんじゃないんですか。やらなくても済んで喰っていきけるんでしょう、きっと。

A 欲しい本がこない、売りたい時にはもうない、なんてグチのロングセラーはあいかわらずだよ。

E スリップの回収の件で話しこんだ店があるんですけど、どうして送れないのか自分でもわからない、結局、日常業務にふり廻わされている、っていう店が意外に多いですよ。

B やるところはきまっているよ。さっき出てたやる気の問題だと思うよ。実際、無理して一、二枚のスリップを貰ったってしよ

うがねえもんね、実際に。

E まあ、そういう面もあるんでしょうけど、いくらいってもやって貰えないと、そんなに忙しいのかなあって考えちゃうんです。

D やる意味がわからないと手も出ないんでしょうね。

A 納得していないっていうこと。

D 今、現在出来てないってことはやる気がないわけでしょう。やってすぐどうのこうのって問題じゃないですよね。

E 啓文堂（府中）の店員さんなんか、帰りの電車のなかでスリップの整理をしたなんて以前、聞きましたけど……やれば出来るんじゃないかと思うけど……。

A なんでも積み重ねだもんね。

C コン較べだ。

A 最近、小売の自店カードはどうですか。ふえてますか。

C 回転率をみてカードを起すのと、書名でやってるのものもあるようですね。

A 名著としてなじんでいるものですか。

C ただ、自店カードにしてどうなったかっていうデーターがないんですねえ。

B 何もやんねえより、いいことはまちがい

ねえよ。

A C そりゃそうだ。

A 国立の増田さんですけどね、常備品が着いてから、今年の常備にもれた単品を抜きとって常備として活してくれた、ありがたかったですねえ。

B そこなんだよ。棚のツラを単品でとらえている。新刊、重版にも敏感だろう。

D 待ちの姿勢ではダメだ、という雰囲気はあるんですよえ、小売も。

B いつも同じ単一メニューでは客にあきられることも承知しているよ。

E やっぱ専門店化の問題ですか。

A それは議論の筋ではあるけど、現実的に具体化を考えるとなかなかむづかしい。

B みんな他店をよく研究してるみたいだけど、どうなの。

C 研究っていうか、そおっと、じっと見廻って自分で考えてる。

A 地域別とか、規模別とかの横のつながりはないの、知恵の出しあいの……。

C 商売仇きみたいところが残っていて、お互いに「まあまあだな」なんていいあっているみたい。

B 大手は別として、そういう面はあるね。

A 専門店化なんて絶望的だなア。

D 書店組合は全く別の感じだし、まあ、オーナーたちの組織でしょうから……。

C “日書連”も揃えておきたい一〇〇〇点なんてやってるじゃないの。

C 業界の情報にはみんなくわしい。最近はいろんな資料が流れていきますしねえ。

B だけどね、よく、担当が変わったからわかりませんっていうのは話にならないねえ。

D プロが少なくなっただけに思うけど。

A 書店としては、いろんなジャンルを覚えたらうって方がいいに決まってるけど、あまり変るのはどうかと思うねえ。

C 店員の間で、わかりませんっていうことが平気で通っちゃう。

B つっかかる客もへったんじゃねえの。

A わからなくなると、もう売れちゃった、っていうんだってね、最近の若いひとは。

B 大変だっていうことはわかってるんだから、どうしたらいいか。俺は、常備の考えを新たにしたい方がいと思うねえ。なにしろ多くの社のものを少数づつでも揃える。各社のコンパクトな常備にたよらず、い

んな社のものをこまめに揃えたり入れ替える必要があると思うねえ。

C 手をつけなきゃ始まらないですからね、一度、棚をそうどっかいするのも手ですね。それで自分なりの店をつくりかえる。

E 版元の手間の問題もあるでしょうけど、かなり手間ひまがかりますね。理解されるかなあ……。

D 大手はもうやり始めてるんでしょう。

A 多くの社のものを置くのは賛成だけど、管理をこまかくしないと……版元とのパイプも本数が増えるわけだから大変だ。

B そのくらいに考えないと脱けられないよこの情況を。

E 選択常備は、そのしりですか。

C 選択にも問題があります。チンブンカンブンのばら選択はよわっちゃうですよ。

D 版元も店を洗い直すところにきてますねえ。地域別とか。

A 一年一年、地域別に店を変えてるところもありますよ。

C 一回転はするけれども、一回売れちゃうともう動かない店もありますし……

A 売りっ放し店もかなりあるよ。

B そういう考え方もある、売り放し結構という、その代り、もつとこまめな仕入をやってもらう。

E うちあたりは、まだそこまで手が廻りませんけど、いんなセットを考えることは出来ますね。

A 大書店で聞いたけど、常備品は三月もたつと、どうなってるのかわからなくなっちゃうんだって。理想は年四回入替だつてさ。

D そりや大変ですね。補充カードの整理はやってるんでしょう。

B 全部はやりきれないだろう。どっかへいっちゃうし、わからなくなっちゃうのもそうあるだろうと思うよ。

A 実用書なんていうのは人海戦術でしょう。返品伝票を持ち歩いて入替えちゃう。

B うちの場合はかなり店はきまっちゃっているけど、これからのことで考えると、裾野をいかに広げるかで考えざるを得ない。

A いままでの常備の考え方を根本的に考えなおすわけだね。

C まだまだ手のつかないところが多いですもの。

A また機会をつくってにつめようよ。

買切制に思う

先日、久しぶりに高田馬場の芳林堂書店を見に行った。皆がよいと言う池袋の芳林堂より、なぜか僕はババと気が合い、知らなかった本を随分発見させてもらった。

その時に気づいたのだが、エスカレーターを登って正面の新刊を並べてある棚の左側の柱に、他の出版社の本を見下す様に「岩波書店・新刊コーナー」というプレートのついた棚が新設されていた。こうしてみると岩波の本も古いな、とか、ちょっと装幀が変わってきた面もあるな、とか、岩波の新刊だけを揃えて展示する方法は、ちと古いのではなからうか、とか、とりとめなく岩波の本たちを眺めた。

その後、やはり「新刊コーナー」が気になっていた。なぜなら、岩波の本を、未来社の

文鳥堂書店(四谷) 木戸幹夫

本を、もっと揃えて、品のいい、風格のある本屋をつくりたいという、本屋なら誰でも持っている希望が僕にもあり、また、たまに問い合わせのある買切り版元の新作を、「はい、これです。」と、即座に差し出せたら、気持ちスッキリしていいだろうなと思う事があるからだ。(その本、おいてないんです。)というと暗い気持ちになってしまうんだ。)

本屋にとって新刊の棚は、人の顔でいえば目になるわけで、目が顔の良し悪しを、ある程度決定する様に、新刊の棚になにを展示するかによって、本屋の印象を決定されてしまう所がある。四谷店は目がないので、足の裏の水虫あたりで、きばろうという変態の本屋である(四谷店にはいっている本が、水虫本という意味ではない)新刊書は、どーでもい

いと考えているわけではなく、力いれすぎみたいにやっているけど、売り上げの多い他の書店では、もっと力をいれているらしい、その上、新刊時の売上冊数、常備品の回転率、単品の回転、部門別売上統計、出版社別売上統計、あとよく解りませんが、さまざまな数字をだし、それを睨んで、展示する本を、部数を決めている、だからこそ売り上げの多い店になるのである、それらの書店で、なぜ本屋の目である所に「新刊コーナー」が設置されたのか。

例えば、講談社が「新刊コーナー」をつくりたい。ついては一冊仕入たら、一冊献本をつけましょう。10冊でしたら、10冊献本つけさせていただきますと条件を付けても、それらの書店では、いいよとは、言わないだろうと思う。あるいは集英社が、一部売ること、に、定価と同じ報奨金を差し上げますから、「新刊コーナー」をつくらせてくれと言って、やる気にはならない気がする。

岩波書店の刊行物は、「買切」であり、返品できないという事を、知っている方も、多いと思うけれど、他にもそうした営業方針をもつ出版社、誠信書房、未来社とあるけれ

ど、なのに岩波だけが買切制の出版社として、有名かといえど、「完全」がつく買切制だからだ。例えば、お客様からの注文で、岩波の本を注文する。その際10日もかかってしまい、そのお客様が、「他の書店にいったら、偶然みつけたんで、買っちゃったよ。違う本、今度買うからさ、今回は勘弁してよ、ネッ。」なんて話は、よくある。それも注文いただいた次の日までなら、取次にすっこんで行って、机の上にある注文伝票をやぶくという技もできるが、そんなうまい話はめったになく、その本がとどく前日あたりに、話はこちらこまれる。注文した本はキャンセルできないのですと、つっぱねたくても、「違う本買うから、ネッ。」の愛敬にまけて、「いいですよ。店においとけば、他のお客様が買ってくれるかもしれないし、うちもたまには買切の本、おいてみたかった。その本は結局はこりをかぶり、何年も同じ所にあったりする。

これが同じく買切制の未来社では、キャンセルになった客注文でも、売れると思って、仕入たけど、売れなかった、アア感違いの本でも、理由を問う事なく、他の本と交換していただける。その違いで、岩波は「完全買

切」といわれているのです。こんな所で、パーフェクトされちまうのは、なんともつらい話だと思いませんか。

全集（買切品）の途中解約も少数だけである。解約される事は、いっそうにかまわない事なのだけど、はっきりやめまうと言ってくださらない方もいる。岩波の読者の方は、そういう傾向が強いと思うのは、被害妄想だろうか。

岩波が繁栄しているのは、本屋が返品できない本をかかえて、泣きをみているからだという説がある。四谷店だけで年間定価で三万円ぐらいの、そうした本がでる。全国で本屋が二万軒として、六億円の売り上げを、その部分であげている事には、ならないか。

以前ある書店の方に、岩波の本でも、返品してると言われ、びっくりした事があった。しかしよく聞くと、岩波書店で返品OKという事を言う訳ではなく、取次にたのみこんで他の本と交換してもらっているだけの話だった。取次にしてみれば、その書店は、売上げの多い店であるからして、多少のリスクをしょっても、他の本をたくさん売ってもらえば十分採算の合う話だったのだろう。こ

れは返品とはいわない。書店と取次との商売上の話だった。それは本屋でも同じだった。よく買っていたくお客様には、オアイソ笑いをしなくてはいけないと思い、出版社がたまにくれる景品や、PR誌を優先的にさしあげる、あるいは、客注の買切の本のキャンセルも笑って受ける。そんな話だと思ふ。

岩波が返品OKとは、いわない。それは、どんなに売り上げの多い書店でも、少ない本屋でも、平等だった。この論理をつらぬいてきた。本屋がいくら不満を言っても、完全買切制度を守り通してきた。

僕はこうした論理の一貫性が好きだ。いかにも岩波らしいかたくなさが好きだ。

どこの本屋でも、岩波の本を扱いたかった。しかし条件がきつすぎて、できなかった。

それが一部の書店では、扱えるようになった。……そんな気がする。なんの根拠もないのだけれど。

もしそうだったたら、いい事だと思う。一部の書店とはいえ、読者が新刊を手にとって、中味を確かめてから、買う事ができる。全面

的な委託制移行は、ちと考えられないから、なんらかの条件、例えば、売り上げに対する一定の率内においては返品をひきとるといふ条件だと思ふ。がつけば、これまでたまつていた返品したい本を返品するために、もっともつと岩波の本を売ろうとなれば、岩波にとつてもけつこうな事ではありませんか。『新刊コーナー』をつくつて、岩波の本をおける様になつた書店の方々、よかつたですね。この話しが決まつた時、「岩波さんも、やつと解つてきたな。いい事だよ。」くらい言つてやりたい。

しかし、それ以外の本屋はどうなるのだろう。これまで通り、岩波の本は完全買切であり、返品など冗談じゃないと、これまで通りの論理でおしきつものなのだろうか。（あくまで勝手な仮定の話しなのだが）一部の書店では、事実上返品可能、その他大勢の本屋は返品できませんで、やつぱり岩波の本はおけないよと泣くしかない話しになってしまうのだろうか。こういうのを、言葉の使い方がまちがつていなければ『差別』というのではないのだろうか。僕たちに自由と平等を教え

戦後民主主義をつくつたとさえいわれている岩波が、本屋を区別、選別している。そういう風にならないだろうか。法の下での平等があるように、取引条件は平等でなければ、いけないのではなからうか。

新潮社の本は、ほんの一部を除いて、いつでも返品できる条件がついている。昨日開店したばかりの本屋でも、昔からやっている売り上げの多い書店でもどこでも、取引条件は同じだ。ただ、それまでの実績に応じて、新刊の配本部数が違うだけの話しだった。だから、本屋は少しでも売れる本を貰うために、新潮文庫をたくさん売りたいと思うのだ。

こうも考える。岩波は委託制に移行するため、実験店をつくり、統計をとっている。最近の書店も計数管理を導入したりして、よくやっている所もふえた。そろそろ、そうした書店を信頼してもいい時期なのではないか。やつと我々と対等につきあえるほど、書店も進歩してきたじゃないか。よかつた、よかつた。

（本当にそうだといひな）
だつたら文鳥堂も秘密に、実験店に加えて

下さい。

取次では返品率35%が採算点だそうです。買切品は、せめて、年間売り上げの10%だけでも返品をみとめて欲しい。返品がどうしてもダメなら、定価交換でいいわけだ。頑張るつもりである。



委員会より

就任挨拶

人文会代表幹事 相田良雄

昨年にひきつづき代表幹事をつとめることになりました。会員社各位のご後援のもとに人文図書の普及・販売という人文会の目的に向かって、一步一步進んでゆきたいと存じております。

昨今、書籍の売れ方は実務書中心となり、人文図書の販売には決して良いムードとはいえません。

しかし、このような状況下でも、確実に人文図書の売上げを伸ばしている書店もございます。都内のK書店では、売場を広げたこともございますが、二桁の伸びを示しております。売上げカードで調べてみますと、新刊を良く売っていることと、売上げ冊数ののびに比例して売上点数ののびが特によい、という現象が見られます。棚への補充の迅速など、店員の皆様のご努力のあとがうかがえます。

さて、人文会では委員会制度で運営しておりますが、本年度より販売・弘報委員会のほかに、調査・企画委員会を設けました。この委員会は、特約店の選定、特約店のメリット・読者へのRP(『人文図書の新刊案内』は中止しましたので)をどうするか、また人文会はどういう方向へ進むべきか、など多角的に検討する委員会でございます。いろいろな人文会に対するご注文は、ぜひこの委員会にお申しつけ頂きたいと存じます。

また人文会など四団体の協賛のもとに、東販主催で、東販本社八階において、六月三十日より七月三日まで、『人文社会科学書二万点フェア』を催しました。紀伊国屋書店・石井書店をはじめ、多くの書店様・図書館様のご協力により、予想の二倍を超える売上高を示しました。本当に有難く、関係各位に心からお礼を申し上げます。本年後半には地方各支店(札幌、仙台、名古屋、京都、大阪、福岡)においても開催する予定でございますので、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

今後、書店、取次店の皆様に喜ばれるような企画を考えたいと存じておりますので、旧に倍するご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第十三回人文会年次総会報告

報告 鈴木 弘

本会第13回年次総会は、五月九日、千葉県銚子市大吠崎グランドホテルに於て開かれ、加盟二〇社から正副会員二四名が参加しました。折しも台風六号の接近で、大吠崎沖は真黒な雲におおわれ、高波の影響でカツオ漁船が座礁し、大型ヘリで救出される光景も見られました。

相田代表幹事は冒頭挨拶のなかで「読者の様変りの状況もみられ、人文図書の普及をめぐる情勢はひきつづいて厳しいが、反面、紀伊国屋書店営業本部での図書館向け販売が成功したり(七九年一〇月)、またこの六月には人文・社会科学系四団体の協賛による『人文・社会科学書二〇、〇〇〇点フェア』が開催

されるなど、新しい動きもできている。これも会の地道な活動の積み重ねが、業界に受け入れられたものと思う。今年度の課題は、販売委員会の強化とともに、情報の改善（新刊案内の再出発）、市場調査の系統化、特約店政策の推進など、懸案の問題も多々あり、このために、新しく調査・企画委員会を設置する旨の提案を行いました。

総会は、昭和五四年度活動報告（鈴木書記幹事）及び会計報告（川越会計幹事）を原案どうり承認、第12回総会以来の会活動が全体として順調に発展してきていることを確認しました。役員改選では、新設の調査・企画委員会の性格と任務について議論が集中しましたが、幹事会提案どうり承認され、人事では三役代表幹事、書記（会計幹事）と販売委員長が再選、弘報委員長（安藤）と調査・企画委員長（八木田）が新任となりました。

また、勲草書房、晶文社、誠信書房、有斐閣の四社で正副担当者の交代が認められました。こうして、会全体の「若がえり」が顕著になりました。

なお、恒例の秋の研修旅行は、今年度は九月二三日と二六日、北海道（札幌市、旭川市）

とすることを正式に決定しました。

販売委員会 神田 治

遙かに晴天が見え隠れる景気の中で、人文専門書の効率販売を模索し、安定した販売活動を目指し、定着させたいと考えており、また人文科学の分野を扱う出版元として、永続的普遍的な書物の発行・販売を念願しております。

さて今年度より、特約店に関する作業その他が新設の調査・企画委員会へと移行され、私共はさらに協力に販売活動へ専念する事が出来ます。従来にも増して特約店の方々を中心として密接な関係を築き、販売促進の業を推し進めてゆきます。

その一つとして、今回東京に於いて開催された「人文社会科学書フェア」があります。

これは人文会を含め四十六社の版元が東販と協力し、図書館を第一の販売対象として、約二〇、〇〇〇点の書籍を一堂に集めて行なったものです。

このフェアは地域により規模の差はありますが、札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・

九州でも行われる予定です。

この催しにより図書館の専門書の蔵書がさらに充実され、地域のニーズに応えられるように、また専門書籍の流通がいつそう円滑に行われるように期待しております。

先般、首都圏の特約書店（東販帖合のみ）を訪問させて頂き、フェアへの協力をお願い申し上げましたが、どうぞ各地の特約書店各位におかれましても格段のご協力をお願い申し上げます。

さて販売委員会では規模の大小の差はあれ、このような行事を効果的に伝えるよう考慮中です。「ジャンル別」、「在庫僅少」、「図書館向同行販売」等々、地域に、書店に、読者に合う形態で対応が出来るようにと考えております。

書店各位も積極的に、ご意見、ご希望をお寄せ下されば幸いです。

次に十数年間継続して来ましたが、人文図書セットを発展的に維持する事も課題としております。新しく発足しました、四団体連絡協議会（人文会・法経会・経営書出版研究会・歴史書懇話会）の場へも呼びかけてセットの充実を計るのも一案としております。

多極化、多様性が言われて久しい昨今ですが、会の目的である、普及と販売の理念を基本としつつ、勇断と実行をもって対応し、読者と書籍の出会い機会を拡げてゆく所存です。

その他、委員会としてこの一年、計画しております事項として、新築中の三省堂書店本店及び大学生協、チェーン店との懇談会、特約店研修訪問等を一步一步進めてゆく考えです。

どうか書店各位におかれましても、混迷する現代に生活する読者へ一灯を呈する人文科学に一層の協力と積極的な販売活動をお願い申し上げる次第です。

調査・企画委員会 八木田三郎

人文会の組織活動としては従来「販売委員会」、「弘報委員会」の二部門であったが、今年から新たに「調査・企画委員会」を設けることとなった。販売、弘報の委員会はそれぞれ人文セット展示、人文会ニュース発行など基本的な活動を続けてきたが、新委員会は流動的な業界の現状に即し、図書館をはじめと

して諸種の調査や情報収集及び分析を行い、前者の活動をよりいっそう充実し、人文会本来の目的が推進されることを念願としている。四団体連絡協議会懇（人文会・法経会・経営書出版研究会・歴史書懇話会）の窓口もかね更に組織の充実を計りたいと思います。

弘報委員会 安藤 豊

弘報委員会は従来どおりの活動に従事するのだけれど、人員はしめた。「ニュース」以外の活動は「企画・調査委員会」とのレンゲイプレイとなる。再々のことだけれど、多方面の活動報告、意見を求めてやまない。いろいろとレパートリーの多い筑摩（菊池）さんが弘報の畑をこやすこと間違いない。

編集後記

「座談会」のむつかしさ、その原稿づくりのむつかしさ、喋ることと文章にすることの大きさが、いろいろと勉強になりましたが、大変おくれてしまい、毎度のことながらお詫び申しあげる。次号は二〇、〇〇〇点フェア特集で準備は着々です。東販の稲葉氏を初め石井書店石井社長の原稿依頼等進んでおります。ご期待下さい。

社氏 書協の再販問題説明会にいった？
説明会なんて知らねえよ。いいわけ会になら行つたけど。

社氏 素直に受けとつてよ、説明会は説明会なのだから。

屋氏 ものはいいいやうだ。説明なんかしてないだらう、あれはどう聞いたつて、いいわけだ、素直にいいわけ会つていえがいい。

社氏 結果の説明会だよ。

屋氏 もう、どうでもいい。結局は、再販からはずれるものもある、それは自由であるつていうわけだから公取のハメ手にハマッタわけだ。負けた相模のいいわけに過ぎないよ。

社氏 しかし、自分たちは再販を守り続ける、その覚悟と団結もよびかけたわけだね

屋氏 馬鹿野郎、この問題は一事が万事なんだ。心いきの問題じゃねえんだよ。

社氏 定価の文字をこことくつけて頑

張つて、元気がかつたじゃないか。

屋氏 君はめくらか。あの理事たちの末梢的な文字の解釈とか、定価さえつければ再販が守れるとか、定価のつけどころを、どこでもいいやうに聞つたとか、どうみたって落着きを欠いていてた

社氏 そうかなア。

屋氏 新聞記事の恐しさはどうだ。どこかにスキがあつたんだよ。あとの祭りじゃ済まねえよ。朝日の「声」の欄にはさっそく読者の歓迎記事が出た。なんてえさまだ。

社氏 さっそく訂正記事の手続きをとつたつていつてたじゃないか。

屋氏 書店さんが固つてる。読者個人々々が書店にいつてきた場合を考えると寒気がするつていつてたよ。

社氏 なにしる定価をつけて……。

屋氏 さつき、いいわすれたけど、定価をカバーでもハコでもいいつていうことはだな、カバーがとれちま

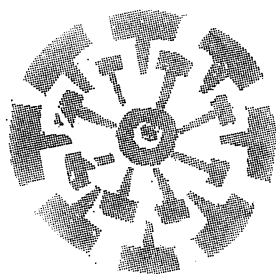
えは定価がないんだ。そこもねらいだよ。

社氏 なにしろ、こちらもちつとしておかないとねえ。

屋氏 なにはともあれ、一般読者に与えた影響は大きい。責任を取つてもらいたい。どこでどうあれ、誤報の謝罪をすべきだ。へたな説明でなく、はっきりと。一刻も早く。

社氏 10月なんてすぐきちまうしね……。

屋氏 のん気に構えていたんでは大変なことになるよ。後手後手だ。



人文会会員名簿

(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号)

55. 7. 30 現在

	社 名	担当者	☎番号	所 在 地	電 話
幹 事	青 木 書 店	山根 襄	101	千代田区神田神保町1-60	292-0481
幹 事	大 月 書 店	鈴木 弘	113	文京区本郷2-11-9	813-4651
	紀伊國屋書店	野口 謙	102	千代田区五番町12 ドミール五番町	263-9006
	勁 草 書 房	氏家 富男	112	文京区後楽2-23-15	815-5277
幹 事	現 代 思 潮 社	安藤 豊	112	文京区小日向1-24-8	943-4406
	社 会 思 想 社	渡辺 和彦	113	文京区本郷1-25-21	813-8101
幹 事	春 秋 社	神田 治	101	千代田区外神田2-18-6	255-9611
	晶 文 社	萬州 隆男	101	千代田区外神田2-1-12	255-4502
	誠 信 書 房	浜地 正憲	112	文京区大塚3-20-6	946-5666
	筑 摩 書 房	菊池 明郎	101	千代田区神田小川町2-8	291-7651
	東 京 創 元 社	清水 純孝	162	新宿区新小川町1-16	268-8231
会 長	東京大学出版会	中平千三郎	113	文京区本郷7-3-1	812-2111 内7955
	〃	別所 久一	〃	〃	811-2157
	日 本 評 論 社	後藤 光行	160	新宿区須賀町14	341-6161
	福 村 出 版	福村 惇一	112	文京区小石川1-3-17	813-3981
幹 事	平 凡 社	八木田三郎	102	千代田区四番町4-1	265-0451
	法政大学出版局	阿部 好文	106	港区南麻布2-8-4	453-0717
代表幹事	み す ず 書 房	相田 良雄	113	文京区本郷5-32-21	814-0131
	未 来 社	石井奈良彦	170	豊島区駒込1-3-15	943-6841
	有 斐 閣	佐藤 進	101	千代田区神田神保町2-17	265-6811
幹 事	吉 川 弘 文 館	川越 重行	113	文京区本郷7-2-8	813-9151

販売委員会 ◎神田 渡辺 浜地 市川 石井 氏家 野口

弘報委員会 ◎安藤 別所 菊池 佐藤

調査・企画委員会 ◎八木田 清水 萬州 後藤 福村

◎印は委員長

日本評論社

人間の自己創造

久野 収

一三〇〇円

民主主義は国民が主権者となる権利と方法を保障しているが現実には「市民」は「死民」となりやすい。つねに行動する市民として人間の生き方を問いつづける著者はいま情報公開を求める運動に立ち上った。本書は時論において第一人者たる久野収の人間復権に関する評論集

東京新宿須賀町／振替東京0＝16

詩人コクトーの端倪すべからざる精神の軌跡
その全貌を初めて明らかにする、待望の全集

ジャン・コクトー全集

全八巻

堀口大學
潮監修 曾根元吉編集

A5判上製新大16
平均六〇〇頁月最8頁
3ヶ月に1冊刊行の予定

第1回11月6月20日刊

第一巻、第二巻 詩

●内容見本星

第三巻 小説

第四巻、第六巻 評論

●内容見本星

価六五〇〇円

第七巻 演劇

第八巻 映画

東京創元社 162 東京新宿新小川町

木戸幸一日記

— 東京裁判期 —

本戸日記研究会(代表/岡義武)編 昭和史の基本資料として評価の高い『木戸幸一日記』(上・下)の続篇。敗戦後A級戦犯に指名された木戸幸一氏の、昭和二〇年暮れから二三年に至る東京裁判時代の日記、及び接見関係記録・談話記録を収録する。
A5判/五三〇頁/定価四八〇〇円

木戸幸一日記 上・下 本戸日記研究会編 各巻〇〇円

木戸幸一関係文書 本戸日記研究会編 各巻〇〇円

東京大学出版会

113 文京区本郷東大構内 振替東京6-59964

アヴェロンの野生児研究

H・レイン著/中野善達訳編 人間の発達と教育に関心のある人に読みつがれてきた「アヴェロンの野生児」の現代的意義、ならびに教育にあたったイタールの業績について集大成する。
A5判/定価三八〇〇円

心理診断と心理治療

山松質文・小花和昭合著 心理診断と心理治療は臨床活動を支える二本の柱である。本書は入門的な基礎知識や多少の経験をもった読者が疑問にもつ事柄をまとめた最新の書である。
四六判/定価一八〇〇円

福村出版

東京・文京
小石川1-3

電話東京
813-3981

平凡社

真面目な冗談

■四六判284頁／定価1、200円

一九七六年から七九年にかけて連載された新聞コラムの「真面目な冗談」の中から筆者によると、
 つて精選された傑作集。筆の及ぶところは、
 政治・社会時評から文化・風俗時評まで。その
 筆致は緩急自在、或は筆鋒鋭く問題の核心を
 を衝き、或は諷刺、パロディ、皮肉の妙技を
 揮い問題の性格を鮮かに描き出す。「真面目な
 冗談」という範疇を定立したいという筆者の
 意図は、つまらぬ真面目主義と笑えない冗談
 の横溢する現代日本に対する批判でもある。

神谷美恵子著作集

第一卷 生きがいについて

昨年秋世を去った著者の著作集を全10巻として刊行する。た
くは稀れな人間知に輝く著者の全貌。内容見本出来。1100円

モダン・アートの哲学

ハーバート・リード「芸術における現代」ほか現代芸術研究
五篇、ピカソら六作家論収録。宇佐見・増野訳 新版 300円

人間、この共謀するもの

BBC
科学シリーズ(3)

コールドー 人類学、社会学、心理学、行動学など、人間諸科学の興味深い話題を平明に解説する。 田中淳訳 300円

ベートーヴェン偉大な創造の時期

ロマン・ロラン全集(25)「第九交響曲」「後期の四重奏曲」「フィニタ・コメディ」の三篇収録。蛙原徳夫他訳 3000円

東京文京本郷
3丁目17-15

みすず書房

◀最新刊▶

ヨーロッパの略奪

L・D・コラール／小島威彦訳

現代の歴史的解明

●A5判・上製貼函入・五一六頁・価四八〇〇円

マルクーゼ／吉田茂芳訳
ヘーゲル存在論と歴史性の理論

●A5判・上製函入り・四一八頁・価五五〇〇円

東京・豊島
駒込1-3-15

未來社

電話・代表
(943) 6841

法政大学出版社

批評の解剖

ノース・ロップ・フライ 過去二年の西
洋文学を対象化してその特性を構造的に
明らけに方につ、文芸の研究をわち批
評のあり方に、根源的変革の道アリ
テス・海老根宏・中村健 訳 3800円

東シナ海の道

＜倭と倭種の世界＞

[illegible]

猿楽能の思想史的考察

家永三郎 戦時中 能楽 彈新 王佐 づの さに
 調べる 郎の 史実 か倉新 教の 神の と
 連有 大の 期 逆照 的 現 相
 対に 重 な 神 悲 視 説 定 1700
 年 年 積 的 産

東京都港区南麻布2-8／振替東京6-95814

誠信書房

東京都文京区大塚3-20-6

新・仏教辞典 増補

中村 元監修 仏教術語・教学から、人名・地名・寺名の固有名詞、美術・文学などの文化一般の項目を厳選し、逆に「愛」「死」などの普通語をも解説した専門家から一般教養者までの便利な辞典。 3500円

般若心経講話

橋本凝胤著 諸経の中で最も短く、二百六十五文字の簡単なものであるがその教えは大変難解である。本書は、この教典の精神を現代生活に即して説き、般若心経の神髄を解明した名著である。 1800円

ストライキ!

アメリカの大衆ラジカリズム

J・ブレッヒャー 戸塚秀夫他訳 アメリカにおける労働者大衆の反乱の歴史とその思想を克明に追う。民衆の真の歴史書。 3500円

インド最後の王

ティプー・スルタンの生涯

渡辺建夫 18世紀の南インドで、イギリスの侵略に抵抗し、戦塵の中に若き生涯を閉じた悲劇の伝説的英雄の夢と生涯を描く。 1600円

ペストと劇場

津野海太郎 シェイクスピアの地球座から中国の「赤い劇場」まで、近代劇場にかかわるもうひとつの劇場を構想する長篇評論。 1600円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 (255) 4501

東京神田 筑摩書房 小川町 2

好評発売中!

① 原始・飛鳥・奈良
(一七八三) 編集・執筆 黛弘道
■B5判・平均210頁・第1巻定価2800円・内容見本皇

新デザインの新決定版国史大年表
●全6巻 編集 井上光貞・児玉幸多・林屋辰三郎
地域の歴史を重視するブロック分けをした年表(出典明示)に、総説・注・カラー図版・索引を付し、重層的に日本史を読み解く。

年表 日本歴史

八木誠一著

自我の虚構と宗教

我々の生を蝕むエゴイズムとニヒリズムの構造を、明晰緻密な文体で剔出し、治癒の可能性と必然性を明らかにする。
四六判上製248頁／一八〇〇円

井上禪定著

駆込寺東慶寺史

化政・天保時代に『縁切寺法』が行なわれていた経緯と、当時の社会情勢を、駆込み寺といわれた東慶寺を中心に描く。
四六判上製440頁／三〇〇〇円

春秋社 東京都千代田区外神田2-18
☎ (03) 255-9611

暗黙知の次元 言語から非言語へ ￥1400

M・ポラニー／佐藤敬三訳 言語的・分析的な知とは別に、非言語的で包括的な知がある。本書は、非言語的な知の構造を明らかにし、人間と科学を問う。

神話としての創世記 〈文化人類学叢書〉 ￥1800

E・リーチ／江河徹訳 創世記やソロモン王説話などのヘブライ神話の構造分析を通じて、異文化接触と近親相姦など、主に性にかかわる問題を考察する。

祭りと文明 ￥2300

J・デュヴィニョー／小薊米唯訳 プラジルの憑依儀礼からナチス・ドイツの政治やフランスの五月革命までを「祭り」として捉え、文化との関連を考察。

紀伊國屋書店

東京都新宿区新宿3／(354)0131

黒田寛一著 社会観の探求

史的唯物論・マルクス主義の原理と方法 1200円

現代における平和と革命

現代マルクス主義の墮落に抗し平和共存理論のエセ・テオロギー性をつく必読書 900円

スターリン批判以後 上・下

エセ反スターリニズムを摘発して自称前衛党と新左翼をうつ革命的マルキストの書 各2000円

宇野経済学方法論批判

先行する学体系的の双壁宇野・樺への創造的批判を試みる(附・樺経済哲学批判) 2000円

現代思潮社

東京都文京区小日向1-24 電話(943)4406

勁草書房

哲学の現場 アリストテレスよ語れ

井上忠著 アリストテレスを哲学史の枠から外し現代哲学の戦場に解放、「私の言葉」に自閉する既成哲学を戦慄させる。 四五〇〇円千200

山川均全集 第九卷

一九二八年六月―一九三〇年一〇月 無産政党の合同運動が進展し日本大衆党成立。再分裂の後全国大衆党成立に至る。 六〇〇〇円千200

森鷗外の医学と文学

宮本忍著 近代医学思想家として出発した鷗外がたどった衛生学者から文学者への道を、評論や後期作品から追求した労作。 二九〇〇円千200

東京都文京区後楽2／振替東京5-175253

そしおぶつくす

わが人生の書 ○ルネサンス人間の数奇な生涯

カルダーノ 青木晴三他訳 偉大なる天才であり賭博師でもあったこの数奇な生涯を告白した自叙伝。 1800円

ポスト・エネルギー ○動かしなかった未来エンジン

一色尚次 塩水エンジン、逆ストローク等の可能性を具体的に実証し、脱石油社会への転換を提起する。 1300円

脳とからだ ○情緒・ことば・運動

荒井良 ヒトの成長にとって重要な期間である受精時から乳幼児までの間の脳の形成と成長の謎を説く。 1300円

ラディカル・サイエンス ○危機における

ローズ他編 里深文彦他訳 女性や人類、自然との関係にとって解放的である科学の可能性を模索する。 2000円

東京文京本郷 社会思想社 03 (813) 8101

非売品

昭和55年8月10日発行 年4回発行 第27号

発行所 人文会 みすず書房内

〒113 東京都文京区本郷5-32-21

(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号)